

農作物技術情報 第3号の要約

令和5年5月25日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 5月18日現在の田植えの進捗率は県全体で60%であり、概ね適期での移植が進んでいる。</p> <p>技術対策 活着後、好天時は浅水管理で地温を高め、分けつの発生を促す。 中干は、6月下旬(6月21日～25日頃)を目安に開始し、溝切りを実施する。 除草剤は、適期を逃さず散布する。 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分する。 斑点米カメムシのふ化盛期は早まっている。地域一斉草刈によりカメムシの密度低減に努める。</p>
畑作物	<p>生育状況: 小麦の出穂期は平年より7日早まった。生育は良好で茎数は概ね平年並みを確保した。</p> <p>技術対策 小麦: 赤かび病防除は適期に確実に実施する。圃場での抜き穂作業は、穂が青く見やすい時期に実施する。成熟期が平年より7日程度早まると予想されるため、収穫作業に備え、早めに乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制を整える。 大豆: 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行う。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、適正な栽植密度を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類の生育は平年並みで収穫が始まっている。露地果菜類は平年並みの5月下旬～6月上旬頃が定植のピークとなる見込み。葉茎菜類は、雨よけほうれんそうは概ね良好な生育で、ねぎ、高冷地のレタス、キャベツが順次定植されている。</p> <p>技術対策 全般: 圃場の排水対策を徹底するとともに、生育促進、施肥効率の改善等を図るため、適時かん水を行う。 施設果菜類: 温度・湿度管理を徹底し、草勢維持に努めるとともに、病虫害の初期防除を徹底する。 露地果菜類: 定植後の活着促進と初期生育確保のため、土壌水分と地温の確保に努める。 葉茎菜類: 雨よけほうれんそうはハウスの換気や圃場水分管理を適切に行い、病虫害の発生や生育停滞を防ぐ。キャベツ、レタスはコナガ、ナモグリバエ等の適期防除を行う。アスパラガスは春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前に茎枯病対策を実施する。ねぎは生育状況を見ながら培土を実施する。</p>
花き	<p>生育状況: りんどうの生育は、平年並みからやや早まっている。育苗は概ね良好で6月上旬より定植が始まる見込み。小ぎくの生育は、8月咲品種の定植は平年並みとなり生育も概ね順調。9月咲品種の定植が始まっている。</p> <p>技術対策 りんどう: 草丈が最も伸長する時期なので乾燥時はかん水する。病虫害では、リンドウホソハマキの重点防除時期となっており、防除を徹底する。また、ハダニ類の初期防除に努める。 小ぎく: 乾燥時はかん水する。摘心、整枝作業が遅れないよう計画的に進める。白さび病の定期防除、ハダニ類、アザミウマ類等の適期防除を行う。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの開花は、満開期で平年より13日程度早い。ぶどうの発芽及び展葉は10～12日早い。4月25日の低温降霜で凍霜害が見られ、着果不足や果実品質の低下が懸念される。</p> <p>技術対策 りんご: 凍霜害の影響を受けた園地では、結実を確認してから摘果を開始し、できるだけ良果を残す。 ぶどう: 気温の推移により生育の進みは変動するので、開花期前後の管理を計画的に進める。凍霜害の影響を受けた園地では、被害程度に応じた新梢管理を行う。</p>
畜産	<p>生育状況: 県北の牧草は、積雪や低温の影響で停滞。県央から県南は、平年並みからやや早い。飼料用とうもろこしは、県内全域で播種の盛期。</p> <p>技術対策 牧草: 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響するので、適期収穫を行う。 飼料用とうもろこし: 収量確保とサイレージの品質向上のため、除草剤の土壌処理、生育期処理を行う。虫害が発生しやすい時期となるので、早期発見に努め被害拡大を防止する。 家畜: 牛舎環境面の暑熱対策は5月中に準備する。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○春の農作業安全月間実施中(4月15日～6月15日) 「農作業 慣れと油断が 事故のもと」

次号は令和5年6月29日(木)発行の予定です